
「コスモの石板」

一兔男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「コスモの石板」

【Nコード】

N3781Y

【作者名】

一兎男

【あらすじ】

(挨拶とお断り)

初めまして。今までの作品はpixivに公開しています。そしてアメブロにも一部公開して来ました。名義は「イットマン」です。

(あらすじ)

一人の老人が終末地球の海辺の村で地下に籠り、電腦世界にアクセスしていた。電腦世界には幾つもの文明時代の残留物が拡散されていた。解読チップを飲み下す事でそれらの物体に封印された映像と言葉が読み取れる様になっている。金属の雨。大殺戮後に生き残っ

た人間はほんの僅かだった。老人は孤独を嫌という程耐え忍んで来た。いつもの様に実験室で新しい物体を探していた老人は謎の石板を発見して旅立つ。そこに封印された過去からの意外なメッセージとは？

SF的主題をもとに書いた初期の短編です。どうぞ御覧になって下さい。

(前書き)

(あらすじ)

一人の老人が終末地球の海辺の村で地下に籠り、電腦世界にアクセスしていた。電腦世界には幾つもの文明時代の残留物が拡散されていた。解読チップを飲み下す事でそれらの物体に封印された映像と言葉が読み取れる様になっている。金属の雨。大殺戮後に生き残った人間はほんの僅かだった。老人は孤独を嫌という程耐え忍んで来た。いつもの様に実験室で新しい物体を探していた老人は謎の石板を発見して旅立つ。そこに封印された過去からの意外なメッセージとは？

奇人と老化した思考の海で押し寄せる浜辺の村に40年という歳月が経とうとした。革命が意味した殺戮の残骸によるローム人の生存はわずかだ。わたしは地下の二〇研究所と称する頑強な空間で一切の社会的関係を見捨て、苦しい自給生活でローム全破壊計画の間をある研究に費やした。

「ちつ。捜査網に探知できる異種思考体は一つのみか。おや、しかも石版じゃないか、また無意味な記録と交錯し解読コードの残りを一つ減らさねばならんかな」

1. (流動機関への接続、地図の作成)

水銀酸素が撒かれた地上は生命のない絶望的な世界を作り出しミクロな端末同士の神経回路で切り開かれた惑星ネットワーク内で文字とイメージによる想像上の都市がいくつか築かれた。安全な取引ができる都市はヒッチタウンという誰にもでも公開された法治街で、わたしは解読コード10組をジャンク店で仕入れた後、この不可解な石版がまだ誰からも触れられずに残っているのを確認して、どうやって手に入るのかルートを決めてみた。

ことわっておくが流動機関とは思考上のある町から町へと渡るのに使う神経作用の交通手段である。

すると、ヒッチタウンから離れること30キロ地点で所在地が赤く光るのがわかる。しかもそこは既存のルートではなかった。だからわたしはあたらしい流動波を捻出して未踏の地点まで掘り進める必要があるのだ。石版を求めるため研究所の電気を全開にして冒険する用意をすばやく済ませ旅立つことにする。

2. (創造と新世界)

目的地が近づくまで疲労は困憊に達した。形而上の神学を打ち立

てる抽象と象徴の領域の中心にぐっさりと石版は深く埋もれていた。赤黒ずんだコケに覆われたそれは触れられぬ呪力が備わった如くわたしに抵抗しようとした。だが手に取り持ち上げてみると意外に軽かったのに驚いた。文字が深く掘り込まれているが赤焦げた色のコケを指で穴に沿ってほじり返すとやっと読むことができた。

「ビリーブ：ユアセルフ」

と記されたただけだ。即座に解読コードをキャップから抜くと口に方張り噛み砕き飲み込んで頭の中でゆっくり読んでみた。微かにイメージが浮かんだ。大きな樹がそれも異様なほど高く聳える枝を見事に広げて想像を絶するものだ。自然に：「世界樹」、とひとりで言葉が生まれた。生命を肯定する勇気が込み上げて来た。わたしは地上に戻りこの映像を集中して念じ、金属に覆われた世界に、

「世界の再生を！ 世界樹よ、もう一度生命ある世界よ、蘇れ！」と全身から力を振り絞り叫んだ。すると金属が溶け始めたように思えた。涙が出た。私は一人じゃない。ひとりじゃないと誓って信じると、頭の上に鮮やかな碧いそらが広がっていった。

(後書き)

電腦空間の卑猥な怪しさは私自身常に想像力を掻き立てられるモチーフでした。短い作品に詰め込めるだけ道具を入れて最悪の舞台で人生の終末を迎える老人に救いはあるのか、という問いだけをイメージして即座に作り上げた作品です。赤黒い苔が果たして人間が流した血の跡なのか。金属の雨で地上が壊滅的な状況になってしまった世界。電腦空間に身を任せている我々にしても既にこの雨に打たれた犠牲者ではないのか。様々な想いを封じた作品です。お楽しみ下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3781y/>

「コスモの石板」

2011年11月11日14時39分発行